

令和の御遷宮を目指して

新しい「令和」の御代に伊勢のまちの伝統をつないでいきます。

令和3年

第50回記念 初穂曳

神宮の神嘗祭を奉祝し初穂を奉納する行事を伊勢の祭りとして起こしていくと共に「お木曳」「お白石持」の技術を毎年継続することで次世代に伝えていくことを目的に、昭和47年から開催されている初穂曳。川曳は地域で持ち回りで実施、陸曳は、神宮の3台の奉曳車を伊勢神宮奉仕会青年部が中心となり運行にあたっています。お木曳の準備が始まる時期でもあり、注目いただきたい第50回の節目です。

令和7年

山口祭 御杣始祭

山の入口の神様に安全を祈り、御杣山で御樋代の用材を伐り出す祭儀から御遷宮が始まります。

御樋代木奉曳式

御樋代とは、ご神体を納める器のことです。まず最初にご用材を曳くのが「御樋代木奉曳式」。本曳の前年に行われます。

浜参宮

本曳にあたって事前に「見興玉神社へ参拝する行事「浜参宮」。それぞれの団が独自で行う行事。禊ぎとしてお祓いを受け身を清め、本曳に臨む慣習です。お白石持行事の前にも行います。

令和8年

伊勢の民俗行事 第一次 お木曳行事

第一次には本曳きに先立ち、お木曳初式（役木曳）が、それぞれ役割を担う団により執り行われ、後日、全団が参加する「般奉曳（本曳）」がはじまります。第二次は本曳のみ、第一次と同様の開催時、期間で行われます。以前は、扉木など重要な用材を第三次として行っていました。昭和以降は第一次・第二次に含んだ行程が細まるようになりました。また、前回より金土日週末の開催とされ、時代に合わせながらより市民の参加が得やすいように運営されています。

令和9年

伊勢の民俗行事 第二次 お木曳行事

宇治橋 架け替え 渡始式

御遷宮に先駆け、約一年かけて宇治橋の架け替えが行われます。

令和11年

伊勢の民俗行事 お白石持行事

「お白石持行事」は、「お木曳」と同様に新しい御正宮の敷地に敷き詰める「お白石」を奉納する伊勢の民俗行事です。宮川でお白石を採拾し、町々の奉献団が内宮・外宮両宮へと奉献します。神域に運び入れた後は一人ひとりが御遷宮間近のご正宮御垣内、内院まで入り「お白石」を納めさせていただく貴重な行事です。

令和15年

令和15年

次期

神宮式年遷宮

六十三回目（予定）

※一連の行事開催年は前例を反映した予定です。社会情勢等により変動する場合があります。



伊勢のごせんぐう

伊勢御遷宮委員会 広報紙 特別号 / 令和2年2月23日発行

編集発行・伊勢御遷宮委員会

伊勢市岩淵1-7-17(伊勢商工会議所内)

電話0596-25-5215